



会報 No.135 平成31年3月号

「幼児教育・保育の無償化」に向けて

八王子市子ども家庭部長 豊田 聡

早春の候、皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。
また、日頃より本市の保育行政に、一方ならぬお力添えをいただき誠にありがとうございます。

国は、幼児教育の無償化について、「新しい経済政策パッケージ」（平成29年12月8日閣議決定）及び「経済財政運営と改革の基本方針2018」（平成30年6月15日閣議決定）を踏まえ、昨年末に関係閣僚間で合意を得た「幼児教育・高等教育無償化の制度の具体化に向けた方針」を示し、具体的な制度設計を行っています。本市においても、国や都からの情報を踏まえ、その具体的な実施方法について検討を重ねているところです。

この幼児教育の無償化の実施に伴い、特に皆様の関心が高い給食費については、国が、1号認定・2号認定を受けた子どもの主食費・副食費ともに、施設によって実費を徴収するという考え方を基本とした方針を打ち出しています。施設による実費の徴収については、施設の事務負担の増加につながるものですので、徴収の方法や徴収額等については保育園協会と協議を行い、実施してまいりたいと考えています。

幼児教育の無償化の実施については、その他にも課題がありますので、保育園協会の皆様とも議論を重ね、本市における無償化が円滑に行われるよう進めてまいりたいと考えています。御協力のほどよろしくお願いいたします。

平成31年度当初予算についてですが、児童福祉費は前年より4億3千万円増の418億円となりました。幼児教育無償化のための予算を計上したほか、保育所関連では、新設1園と増改築等3園に係る施設整備費を盛り込むとともに、保育士不足の対応策として保育士宿舍借上支援加算を継続して実施してまいります。また、新たに保育園協会から要望のありました、保育の質の向上を図ることを目的として、保育園協会の皆様が実施する研修費用の一部を補助する費用を確保させていただきましたので、ぜひ御活用ください。

平成31年度（2019年度）は、皆様からの貴重な御意見を参考とさせていただき、平成27年度（2015年度）に策定した「第3次子ども育成計画『ビジョン すくすく☆はちおうじ』」の最終年度にあたります。計画の基本理念である「みんなで育てる みんなが育つ はちおうじ」の実現を目指して、本市の未来を担う子どもたちが健やかに成長していくよう施策を継続してまいります。また、平成31年度（2019年度）は、第4次となる計画の検討を開始します。計画策定にあたっては、本市が、次世代を担う子ども・若者たちにとって、より一層、夢と希望をもてるまちとなるよう、保育園協会の皆様の御意見も参考にさせていただきながら進めてまいりたいと考えておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

結びに、八王子市私立保育園協会の益々の御発展と各園の皆様の御健勝を祈念し、御挨拶とさせていただきます。

平成30年度 養成校との懇談会

平成30年6月11日(月)に今年で5回目となる『養成校との懇談会』が京王プラザホテル八王子にて開催されました。同懇談会は「保育士が保育園で働きやすい環境を……。」を目的として企画し毎年情報交換を行っております。

昨年度に比べ今年は新たな参加校も増え、17校25名(昨年は15校21名)の方にご参加いただきました。

青年部員が、八王子近郊の養成校を1校ずつ訪問し、協会としての保育並びに保育士への熱い想いを貫いた結果と感じております。

参加養成校は以下の通りです。

参加校一覧	アルファー医療福祉専門学校	和泉短期大学	駒沢女子短期大学	相模女子大学
	竹早教員保育士養成所	鶴川女子短期大学	帝京科学大学	東京家政学院大学
	東京教育専門学校	東京純心大学	東京保育医療秘書専門学校	東京保育専門学校
	日本工学院八王子専門学校	八王子保育専門学院	明星大学	目白大学
	和光大学			

主催者挨拶：

八王子市私立保育園協会 会長 宮崎 豊彦



「昨年11月に当協会が一般社団法人化の承認がおり八王子市私立保育園協会も有料人材紹介、ホームページ作成等様々な活動を計画していることを報告

させていただきました。

八王子市私立保育園協会では、保育士の育成を養成校との共通の理解とし、今後、実習の受入指針や受入体制を制定の他、ボランティアや学生のアルバイト等の受け入れを考えております。また高校生に対しても将来保育士を目指している方を職場体験やアルバイト、ボランティア等を積極的に受け入れ、またはちおうじ保育園フェアをとおして様々な保育園を見てほしいと思っております。

その為にも本会を含め、養成校とも情報交換をし、多くの情報にて模索していく必要があると考えております。また今回は多摩地区高等学校進路指導協議会の事務局長の本間先生にもおこしいたごき、今後の保育を取り巻く高校生の現状等についてもお話をし、より良い情報を共有できたらと考えております。」とのお挨拶をいただきました。

八王子市役所情勢報告：

八王子市役所保育幼園課係長 大澤 吉隆

八王子市役所 八王子市の保育の現状について説明をいただきました。

八王子の保育状況についてご説明いたします。

八王子市では待機児童がおりましたのは平成22年

の496名です。

そこから各機関のご協力をいただき、現在では56名となっております。

今年度中の待機児童0を見込んでおります。

また保育士さんにも対象となる八王子市の政策についてご説明させていただきます。八王子市産業振興部産業政策課に事業で八王子市への中小企業への就業率と定着率の上昇を考慮し、条件を満たした方に奨励金をだしております。

八王子就職ナビにご登録をお願いいたします。

また、保育士に対しては宿舍借上げ支援事業を行い、市で補助を行い、人材の確保を行っております。昨年度は100名分の枠を準備いたしました。今年度は140名分の枠を準備しております。

はちおうじ保育園フェアのご案内：

八王子市私立保育園協会青年部

青年部長より今年度ははちおうじ保育園フェアの案内をさせていただきました。『はちおうじ保育園フェア』では、昨年実績で八王子市私立保育園協会会員園82園中51園の保育園が参加させていただいており、八王子市の保育園の特色を見てもらいながら自分にあった就職先だけではなく、実習先も選定してもらえるように各保育園の保育内容展として開催させていただいております。今年度は9月8日の土曜日開催となりますので多くの学生の方に来ていただけるように周知のお願いをしました。

また、今年度は保育士を目指す高校生対象の保育進学セミナーを企画しており、進学セミナー終了後に参加した高校生に直接保育養成校の話聞く機会を計画している主旨を伝え、はちおうじ保育園フェアへの養成校の参加を依頼しました。

当日の配布資料として昨年と八王子私立保育園協会の『実習』『アルバイト』『ボランティア』『職場体験』等の受入状況一覧表を配布させていただきました。

多摩地区高等学校進路指導協議会

事務局長 本間 恒男

高校生の進学についての現状をお話していただきました。

現在、地域の連携が重要視されるなかこのような機会をいただくことに感謝しております。

誠にありがとうございます。

まず多摩高進についてご説明させていただきます。正式名は多摩地区高等学校進路指導協議会（以下多摩高進）と言います。1962年に発足し55年の歴史があります。多摩高進は多摩地区の都立高校を中心に一部私立高校を含められますが、全部で約120校の連携の組織になります。当初は立川で就職の場を確保するために始まった協議会で、現在はいくつかのある協議会のなかの一つになります。現在は就職のあっせんだけではなくて、進学やキャリア教育として、毎週金曜日年間35回以上の研究活動を行っています。そういったなか外部人材での連携交流は重要で今回このような地域での養成校から就職先の保育園まで連携した会は非常にいい試みだと感じます。近年の高校生の学生の質も問われる中、主体性多様性も重要だと感じます。またボランティア等の経験が必要な時代になっていく中で地域連携が重要で保育園協会の作成したアルバイト、ボランティア一覧などの情報は大変有効で活用していきたい。今回のはちおうじ保育園フェアの高校生進学相談会についても高校生がいろんな保育養成校の先生と直接話が出来る機会があるいいフェアだと思います。ただ9月8日は各高校の文化祭シーズンなので高校生の参加が可能か気になります。

7月に多摩高進の総会があるのでその場でフェアの案内をしてみたいかかと、お話をいただきました。



その後休憩をはさみ懇談会へとすすみました。

昨年一昨年は実習生が困った事、実習園が困った事など事例をあげてリアルな会議が行われましたが、今回は生徒さんが打たれ弱い、少しの注意を叱られたと受け取ってしまう、日誌の赤入れ（赤いペンで訂正）を否定されたと感じてしまう学生が多い。実習報告書では句読点の打ち方やいかに文章で相手に伝えること。文章力の大切さなどが話題になりました。

懇談の中では多摩高進の本間先生より、保育士になるには覚悟がいることを生徒に伝えているとお話をいただきました。中にはどうしても保育士には向いていない学生がいる。その学生を養成校に進学させても難しいのでは…。との話題があがりましたが、養成校側からは、そういう学生を我々養成校が保育士に育成していくので…と将来保育士希望の高校生を繋いでいく話がみられました。これから少子化になり高校生をはじめ子どもの人数が減っていく状況で各養成校は学生の確保が課題になっています。青年部長より最近では企業系の保育園と保育人材紹介会社が保育士資格を取得できる動きがあります。短時間の週に1～2回のスクーリング、低価格、保育士試験の3回までには合格保証等、その後の就職先のマッチングまでをサービスとした保育士獲得の動きがみられます。将来保育士を目指す高校生をしっかりと養成校へ進学をしてもらい専門職としての勉強をして、将来保育士になり地元へ戻ってもらえるような高校、養成校、保育園の連携を築いていきたい今回の懇談会を企画させていただきました。養成校、実習園の双方で素敵な保育士を育てていきたいという話で終わりました。

最後は一般社団法人八王子市私立保育園協会顧問の齊藤先生に締めのご挨拶をして頂き、養成校との懇談会を終了しました。

ご参加していただいた協会会員園の先生方ありがとうございました。（榊原）

平成30年度 はちおうじ保育園フェア

平成30年9月8日（土）に、学園都市センターにて「はちおうじ保育園フェア」を開催いたしました。八王子市私立保育園協会主催としては4回目になります。

本フェア開催にあたり八王子市私立保育園協会宮崎会長より「八王子市でも待機児童問題解消に向けて、保育士の確保は必須となっております。現在、保育士の処遇に対し、国や東京都が給与面や待遇面で様々な改善を進めているものの、保育士不足は解消されません。そんな中で、はちおうじ保育園フェアは学生や保育士が『自分にあった保育園を選択できる』こと、また『保育士確保と保育の質の向上のため、保育士が保育園で働きやすい環境を整えること』、『実習の段階から保育士を育てること』を目的とし、八保協青年部主導で今年度も開催することができました。」と挨拶がありました。

平成29年度のはちおうじ保育園フェアの来場者数は16校47名（実習12名、就職35名）でした。平成30年度来場者数は8校29名（就職21名、実習8名）参加校数ともに昨年度に比べて減少しました。東京都内の各自治体の園長会等が主催して開催している保育園フェアの状況を聞きますと、他自治体でも年々参加者が減っている傾向があるそうです。近年の保育士バッシングによる学生数の減少、各自治体でのフェアの開催による分散等も考えられます。昨年度同様広報はちおうじと、はちバス車内、今年度はタウンニュースにも掲載したことによって、学生だけではなく潜在保育士の方や保育士資格は持っていないが保育園で働きたいという方の参加も多く、30～70代の方の来場も見られました。当日の様子として、来場者は各保育園の園長先生や保育士から、それぞれの保育園の様々な特色の説明を受けながら、実習や、就職するにあたっての多くのアドバイス等を聞いていました。また、各法人の説明もスライドや冊子などで園の様子を紹介し、将来仲間になるかもしれない来場者にとってわかりやすいものとなっており、終了間際までブースで説明を受ける姿が見られ、盛況のうちに終了することができました。

尚、今回は20法人51園に参加していただきました。

また今年度は初めての試みとして高校生にむけての保育進学セミナーを開催しました。近年株式会社による保育士資格所得にむけての予備校が開設されています。国家資格にて保育士資格を所得する為に週に1～2回のスクーリングを行い、短期間、低価格での保育士資格所得、その後の就職までを保証し保育士希望の高校生の獲得の動きがみられます。専門職として保育士資格には専門の保育養成校へ進学してもらい保育士になる為の知識経験を学んでもらい養成校から保育現場へのしっかりした流れを維持する為にも、保育に興味のある高校生に保育士になる為の進学講座、その後隣の部屋にて保育養成校のブースを構え14校の養成校に参加していただき進学相談会を開催しました。6校（11名）の参加があり進学に向けて高校生からの質疑応答に答えていただきました。



来場者からは最後にアンケートを提出していただきました。
以下、アンケートの集計結果です。

アンケート結果

- ① はちおうじ保育園フェアをどこでお知りになりましたか？
 - 学校 …… 16名 ●知り合い …… 6名 ●八王子市役所 …… 7名
 - その他 インターネット …… 2名 他のフェア …… 1名
- ② 就職先として、現在考えている職種をお聞かせください（複数回答可）
 - 私立保育園 …… 28名 ●公立保育園 …… 11名 ●幼稚園 …… 6名
 - 株式会社 …… 5名 ●認定子ども園 …… 8名 ●その他施設等 …… 3名
- ③ 就職・実習先として保育園を選ぶ際に最も重視するものは何ですか？（複数回答可）
 - 理念 …… 23名 ●労務体制 …… 13名 ●福利厚生 …… 11名
 - 給与 …… 9名 ●交通の便 …… 15名 ●職場の雰囲気 …… 24名
- ④ はちおうじ保育園フェアに参加してみて、気になる園は見つかりましたか？
 - はい …… 31名 ●いいえ …… 0名
- ⑤ 八王子市の保育園についてよく理解できたと感じましたか？
 - はい …… 29名 ●いいえ …… 2名
- ⑥ フェア全体に対して、意見、感想
 - どこの園も先生方が親切に説明して下さったので就職するにあたって参考になった。
 - たくさん園が参加していて、みなさんと直接話をする場面がありとても勉強になりました。
 - 様々な保育園の魅力を知り園見学に是非参加したいと思いました。
 - 丁寧な説明と明るい雰囲気とても為になりました。今後の就職活動に活かしたいと思います。
 - フェアに来て良かったです。はじめ新卒の保育園フェアかと思って気おくれしていましたが、子育て経験者でも仕事があるようなので来て良かったです。保育園に見学に行くことになりました。
 - 入り口で案内の方がすぐに声を掛けてくださりアドバイスなどをいただきブースへ行きやすかったです。
 - 入口に地図がありどこにある園なのかわかりやすかった、案内の方が親切に声を掛けて下さって良かったです。
 - 八王子市内での就職を考えている身として、一度に様々な園のお話を聞くことが出来てとても良い機会になりました。保育教材を見ることができたので、より考えるきっかけになりました。

また、就職・実習希望の来場者29名のうち、在住状況は以下の通りでした。

- 東京都 ●八王子市 …… 17名 ●府中市 …… 1名 ●多摩市 …… 1名
- 神奈川県 ●相模原市 …… 1名
- 山梨県 ●上野原市 …… 1名
- 茨城県 ●水戸市 …… 1名

年齢層

- 10代 …… 7名 20代 …… 11名 30代 …… 2名
- 40代 …… 6名 50代 …… 2名 70代 …… 1名

高校生の来場者11名のうち在住状況は以下の通りでした。

- 都内高校 …… 4校
神奈川県の高校 …… 2校
- 八王子市 …… 7名
日野市 …… 1名
府中市 …… 1名
相模原市 …… 1名
横浜市 …… 1名
- 1年生 …… 2名
2年生 …… 8名
3年生 …… 1名



来年度開催に向けて

今回ではちおうじ保育園フェアは4回目の開催になりました。今回も広報はちおうじ、タウンニュースの掲載を見て新卒のみではなく潜在保育士の方の参加もみられました。また、数年前から養成校の実習後の報告会に参加させていただく機会を頂きました。その際自分の保育観に合っていない保育園に実習に行ってしまったことや、その園の雰囲気や人間関係で保育士への道を諦めてしまうという話を耳にしました。『実習の段階から保育士を育てること』という八王子市私立保育園協会と本フェアの趣旨に基づき、その状況を改善するために学生の保育園実習の充実を図りたいと考え、6月に開催した養成校との懇談会等で養成校に呼びかけ、本フェアを実習や就職先の情報収集の場とし、まず実習先を選ぶ段階からその保育園の事を良く知ってもらい、理解したうえで実習・就職に臨んでもらうことで学生と保育園とのミスマッチを防ぎたいと考えております。その為にも本フェアが八王子市の多くの保育園の特色を知ってもらえるような機会となれるようにこれからも進めていかなければならないと感じます。

はちおうじ保育園フェアも回を重ね、他団体の保育園就職フェアとの違いを理解してもらうことで、保育養成校の教員が本フェアにより興味を持ち、学生を参加させたいことを狙い、高校生の進学セミナーを企画しました。6月に開催した近隣養成校との懇談会にて趣旨を説明させていただき、協会の新しい試みに賛同していただいた大学、短期大学、専門学校14校の養成校に参加していただきました。実際に養成校の教員に学校の特色を説明していただき、保育士を目指す高校生が自分の保育観にあった学校を選び、そこで専門職としての知識を学び、経験を積み、保育士資格を取得して八王子市へ就職をするというサイクルを築き上げていければよいと考えます。

今年度は東京都民間保育園協会主催の東京保育フォト展も合同開催を致しました。多くの就職実習希望者、保育進学希望の高校生、在園児保護者、養成校の教員等にも参加していただき、保育の良さを視覚的にアピールできたと思います。

来年度のはちおうじ保育園フェアについては日程の見直しを行い11月16日（土）に開催予定です。フェアの周知、内容の見直しなど検討課題もあります。一人でも多くの学生に周知するために、各養成校への案内の配布や、広報はちおうじ等への掲載等の方法をさらに工夫していこうと思います。また会員園の皆様にも、実習生や巡回に来た養成校の教員の方に、はちおうじ保育園フェアの案内のご協力を是非ともお願いいたします。

アンケートの内容を検討し、参加者を増加させ盛大なフェアにしていきたいと思っています。

ご参加いただいた方、また各方面でご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

シリーズ 私の保育園

松枝保育園

園庭づくりを通して

松枝保育園は松枝住宅の1階部分に42年前に住宅とともに作られ、そこをお借りして運営している園です。昨年より、「自分たちの手による園庭づくり」を始めました。園庭整備を専門家のアドバイスを受けながら、職員および保護者や地域の方たちを巻き込んでワークショップ形式で行っています。子どもたちの保育環境が劇的に変化するだけでなく、モノづくりを通じて、職員と保護者・保護者同士・職員と地域の方々とのつながりが生まれていくのが、最大の魅力だと思います。



まず、最初の大きな変化は乳児園庭と幼児園庭を仕切る柵をなくしたことです。柵を取ったら、小さい空間で時に柵にくっついていた1・2才児が解き放たれたように幼児園庭に飛び出し、目を輝かせて水に触れ、泥んこになる姿がありました。鉄製遊具を撤去し、代わりに木柵を使った3段砂場と築山を作りました。小さな子どもたちがチャレンジを失敗したとしても職員が安心して見ていられる環境です。また、子ども同士の衝突などを心配した私たちでしたが、幼児さんもちゃんと分かって、うまくよけた

り、時に手伝ったり、異年齢でのいい関わりが出来てきています。園庭遊具のルールもなくして、子どもたちが自分で考えてチャレンジできる環境に変えています。

今では2才児も大きなシャベルをうまく使います。子どもたちは本当に他の子をよく見ている、頭で考え体で試しながら遊んでいるのだということが、よく見えてきました。職員の余計な声かけも減りました。

大人の都合で、子どもたちの世界を狭めていないか、チャレンジするチャンスを奪っていないか、園庭づくりをきっかけに、さらに考えるようになりました。職員間では「園庭から保育を考える会」ができ、月2回のペースで活発な話し合いが行われています。保育環境が変わると、子どもが変わり、職員が変わっていきます。それぞれの子どもたちの想いを受け止めて、常に変化し続ける園でありたいと思っています。



園長 高柳 桜

フエロー保育園

園長 中原 育子

社会福祉法人八王子ふじみ会初代理事長中原愛子先生は、昭和30年に市内大楽寺町に中原助産院を開設。助産院を営む中、働く女性の子育て支援施設が必要と考え自宅を改装し0歳児保育所「中原まりやの家」を昭和45年に開設いたしました。その後、八王子市からの支援を受け社会福祉法人八王子ふじみ会を設立し、昭和54年4月0・1・2歳児を対象としたフエロー保育園を開設いたしました。保育目標に「元気な子、明るい子、だれからも愛される子」を掲げ、子どもたちの健全な心身の発達に努めることはもちろん、女性の社会進出・子育て家庭のサポートにいち早く目を向け乳児保育所をスタートさせました。

開設し40年近くが経過し施設の老朽化が進んだことから平成29年9月から新園整備の工事を着工し、平成30年4月より定員を42名に増員し新たな施設フエロー保育園を開園いたしました。新園は、1階床



面積330.10㎡、2階床面積225.10㎡、延床面積555.20㎡の鉄骨造2階建てとなります。建築にあたっては限られた敷地を生かし、園庭を園舎2階南面に配置し、日当たりと広さを確保。また、内装においては温かみのある色調とし、明り取りの天窓を設置するなど明るく良好な保育環境の確保に努めました。

子どもたちの育ちをめぐる環境は社会状況の変化と共に大きく変わり、家庭と仕事を両立するために、保護者の保育園への期待は多様化しております。このような社会状況の変化の中で、保護者への子育て支援については、保護者との信頼関係をより一層深めるために、見学懇談会等を通じて子育ての相談や助言を行い、子どもの発達上の課題に個別の対応を図るなど、きめ細やかな家庭への支援に取り組んでおります。また、多様化する保護者のニーズに対応するため、行政等が実施する研修に積極的に参加すると共に園内研修を通じて職員一人ひとりの資質の向上に努めております。



園長研修報告

平成31年2月22日（金）に一般社団法人八王子市私立保育園協会の総勢28名の会員が社会福祉法人多摩育児会幼保連携型認定こども園『イコロ昭和の森』を視察研修させていただきました。

イコロ昭和の森は昭島市にあります幼保連携型認定こども園です。

イコロ昭和の森は平成24年に昭島市が計画した福祉充実計画の公募を受け、平成27年に開園となりました。同公募に対し社会福祉法人多摩育児会では新制度発足に合わせ、教育・保育施設である幼保連携型認定こども園として開園されました。

定員数は保育利用者（2・3号認定）160名と教育標準者（1号認定）30名の定員です。

イコロ昭和の森では建物の造りがクラスごとで意識しておらず、全クラス一体感のある造りになっていました。これはイコロ昭和の森が取り入れている縦割り保育やモンテッソーリ教育に合わせた様子が伺えました。また建物自体が感染症を意識した換気システムになっており、安全面でも高い造りになっておりました。

視察にあたり、当協会の光宗副会長より岡崎理事長へ御礼し、『ほいく八王子100号冊子』を渡しました。

岡崎理事長からは法人のご紹介やイコロ昭和の森の建設の経緯をご説明いただき、また本日の見学案内スタッフである長友園長、桜井副園長、藤田副園長の紹介をいただきました。視察中は子どもたちが自然を意識した園庭、また屋上で様々な遊びや主活動を楽しそうにしていたのが大変印象的でした。

園内の見学後は、意見交換会を行い、当協会からも下記の質問をさせていただきました。質問はいくつかさせていただきましたが、主なものを抜粋し紹介させていただきます。

Q 1：実際に運営して感じた事

- ① 新設園として運営や地域への対応方法などは今でも課題がある。
- ② 建物基準が保育園と幼稚園の基準に相違があり、工夫を行い開園に至った。

- ③ こども園という名称になじみがなく、行事ごとに『こども園』と保護者の皆様に伝えている。
- ④ 保護者の教育に対する期待が高く、保育と教育を別々に考える方もいる。
- ⑤ 教育保育の4時間枠については、年長になると午後の活動を考慮すると凝縮した内容になるが園児が自分で選択できる形式にしている。

Q 2：1号認定の子どもを受け入れるにあたって職員の意識

- ① 保育教諭としては各職員の幼稚園教員免許の更新に苦労したが、研修をして改めて勉強し、大変役に立っている。
また職員間でも保育教諭としての自覚があり、アシスタントさんが幼稚園教諭の更新まで意識しております。

Q 3：保育現場での具体的対応について

- ① 1号認定の一時預かりを実施。4時間並びに12時間預かりの1号認定の園児います。子どもたちは午後の楽しみを覚え始めている。
- ② 縦割り保育を実施。モンテッソーリ教育を基準のため、縦割り保育を平成30年度より取り入れ、1歳と2歳、3歳と4歳の縦割りを取り入れている。開園当初は幼稚園としての基準が横割りのため、横割りでスタートだったが、平成30年度より縦割り保育が開始となった。
- ③ 建物の造りから5歳児を真ん中に位置し、下のクラスは5歳児さんを目標にできるような状態にしている。また5歳児は年長としての自覚が伺える。

Q 4：保護者対応について

- ① 保護者の関心度が高く、要望も大変多い。入園前の見学は園長自ら行い、内容を一つにした説明を行っている。
- ② 園の行事については特に運動会をやめ、運動発表会にし、園内で行う事とした。当初は外で行ってほしい旨の要望が保護者からでていたが、園での誠実



な対応や園児の様子を見てからはなくなった。

- ③ 保育園と幼稚園の相違について質問はよくありますが、保育園と幼稚園の違いではなく、その園でどのような活動をしているかを見学した方が良いことを伝えております。

Q 5：職員の配置と状況

- ① 保育園では園長、主任となるが、園長と副園長、主幹教諭という名称となる。
② 養護教諭か看護師の配置が必要。
③ 学校薬剤師…学校には配置されているおり、こども園でも薬剤師会に依頼している。

Q 6：昭島市の待機児の状況に伴う今後の展開について

- ① 待機児童数：平成30年 4月 35名
平成30年10月時点 49名
平成31年 4月は減少予定。
定員割れまではない状況です。
② 立川基地跡地昭島分の開発
昭島市として同地の開発に区画整理を予定しており、人口増大に合わせて子ども園や保育園も計画している。
③ 企業主導型小規模園も年間1園ずつ増加している。

Q 7：日々の課題

- ① 幼保連携型認定こども園としての配慮
幼保連携型認定こども園の教育保育要領総則の第1章の第3節『生活の運動性やリズムの多様性を配慮するとともに在園時間、運営時期や登園日数の違いなどを状況に応じ教育及び保育内容など展開について工夫することとある』とあるように計画の重要性を感じています。
② 駐車場の課題
園の前の道路は駅に行く人で大変多く、時間帯によっては大変混雑します。
保護者には混雑中は迂回を依頼しておりますがまだ解消できていません。
③ 幼保連携型認定こども園指導要録について

幼保連携型認定こども園指導要録は保育要録よりも詳細になっております。例えば教育日数を記入しなければならないが、これは1号認定や2号認定関わらず記載しなければならない。

Q 8：事務の負担

- ④ 保育料の徴収（1号～3号まで）がこども園だと自園での徴収となる。
⑤ 共通の金融機関からの引き落としにしている。市内の小学校の引き落としが同金融機関になっている。手数料1件10円。
⑥ 未納については数回の引き落としから各園長との面談を含め、督促をしている。最終的に回収できなかった場合は、経理上で雑費処理にしている。
尚、未納の方の退園は促せない。

Q 9：幼保連携型を選択した理由は？また幼保連携にしていかがでしょうか？

- ① 幼保連携を選択したのは昭島市の要望です。
② 幼保連携にしたことで、今後のこども園へのモデルになりました。

八王子市私立保育園協会の会員も幼保連携型こども園にしていく可能性がある中今回の幼保連携型認定こども園『イコロ昭和の森』への視察は大変勉強になりました。

岡崎理事長、長友園長、桜井副園長、藤田副園長ご多忙のところ視察させていただきまた質問に関しても真摯なご対応いただき、誠にありがとうございました。
(井上兄)



編集後記

今年は降雪もなく春を迎えられほっとしています。

子どもたちは進級、教室移動に向け新しいお部屋に慣れるよう、普段に増してお兄さんお姉さんの部屋で遊ぶ姿が増え、おもちゃを貸してあげたり優しく声を掛ける幼児クラスの子どもの姿に頼もしさを感じます。

5月には元号が変わりますし、10月からの幼児教育無償化に伴う給食費の取り扱い等、忙しくなりそうですが、子どもたちの成長と新しい子どもたちや保護者の方との出会いを楽しみに新年度を迎えたいと思います。

先生方、職員のみなさま、一年間本当にお疲れさまでした。

(板野)